

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：民生費 項：児童福祉費 目：児童福祉諸費

事業名 産休等代替職員設置事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

子ども・女性部子育て支援課保育支援係

電話番号：058-272-1111(内3536)

E-mail：c11236@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 4,758 千円 (前年度予算額：5,160 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	5,160	0	0	0	0	0	0	0	5,160
要求額	4,758	0	0	0	0	0	0	0	4,758
決定額	4,758	0	0	0	0	0	0	0	4,758

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・昭和37年度に補助制度を開始して以来、半世紀近く補助を行っており、制度として定着している。
- ・私立の児童福祉施設等においては、職員の産休、病休取得時の産休等代替職員の雇用経費の負担が大きく、産休等代替職員を雇用しない場合、職員の産休、病休の取得が制限され、また利用者の処遇の低下を招くおそれがあるため、補助を実施している。
- ・代替職員(特に保育士)の確保が困難。

(2) 事業内容

私立の児童福祉施設等の直接処遇職員が産休、病休を取得した場合に、代替職員に要する経費の負担を行い、職員の母体の保護又は療養の保障を図りつつ、施設における児童等への適切な処遇を確保する。

① 出産の場合

就業規則等の規定による産前産後の休暇等の期間(出産予定日の6週間前の日から産後8週間を経過する日までの期間)

② 傷病により31日以上療養を必要とする場合

休暇等の取得後30日を経過した日を起算日として、60日を経過する日までの期間を限度とした休暇等の期間

(3) 県負担・補助率の考え方

①、②とも、基準額7,320円/日、補助率10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	4,758	産休、病休代替職員の雇用経費に対する補助
合計	4,758	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 後年度の財政負担

私立の施設については、雇用負担の経費が大きく、児童福祉施設等の勤務条件や利用者の処遇確保のため、継続する。

(2) 事業主体及びその妥当性

県へ税源移譲されているため、県で実施する必要がある。

県単独補助金事業評価調書

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	産休等代替職員設置事業費補助金
補助事業者（団体）	私立児童福祉施設等 (理由) 雇用に係る経費を直接負担しているため。
補助事業の概要	(目的) 職員の母体の保護または療養の保障を図るとともに、児童への適切な処遇を確保する。 (内容) 産休等代替職員の雇用経費を助成する。
補助率・補助単価等	定額 (内容) 基準額7,320円/日、補助率10/10 (理由) 平成16年度までの国庫事業の基準額を元に、岐阜県における最低賃金の上昇率を加味した額を適用。平成17年度以降県へ税源移譲されているため上記のとおり補助率を設定する。
補助効果	私立の児童福祉施設においては、職員の産休・病休時の代替職員の雇用経費の負担が大きいため、代替職員を雇用しない場合、職員の産休・病休の取得が制限され、また児童の処遇の低下を招くおそれがある。よって、代替職員の雇用経費を助成することで、職員の産休・病休の取得を可能にする。
終期の設定	終期 令和11年度 (理由) 5年毎に事業の必要性等を検討

(事業目標)

<p>・ 終期までに何をどのような状態にしたいのか</p> <p>産休等代替職員の産休・病休の取得によって、職員の母体の保護と療養の保障が得られるようにし、代替職員を雇い入れることにより新たな雇用を創出する。</p>

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (H16)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R11)	達成率
	①補助金交付件数 (代替職員設置数)	0	12	40	40	

補助金交付実績 (単位：千円)	R4年度	R5年度	R6年度
	4,670	3,975	4,158

(これまでの取組内容と成果)

令和4年度	産休・病休を取得した保育士、調理員などの職員の母体の保護と療養の保障が得られ、併せて児童への適切な処遇を確保できた。また、代替職員を雇い入れることにより新たな雇用を創出した。
	指標① 目標：40 実績：13 達成率：32.5%
令和5年度	産休を取得した保育士の母体の保護と療養の保障が得られ、併せて児童への適切な処遇を確保できた。また、代替職員を雇い入れることにより新たな雇用を創出した。
	指標① 目標：40 実績：13 達成率：32.5%
令和6年度	産休を取得した保育士の母体の保護と療養の保障が得られ、併せて児童への適切な処遇を確保できた。また、代替職員を雇い入れることにより新たな雇用を創出した。
	指標① 目標：40 実績：12 達成率：30%

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	私立の施設職員の産休・病休の保障、児童に対する適切な処遇の確保のため、事業の必要性が高い。
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</p>	
(評価) 2	私立の施設職員の産休・病休の保障、児童に対する適切な処遇の確保につながっており、事業効果が現れている。
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 2	手続き上の書類の電子化に取り組み、事務の効率化に努めた。

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 必要とする人材が不足しており、代替職員の確保が難しい。</p>

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 統合できる類似の事業はない。事業の縮小、廃止を行った場合、雇用経費の負担が大きくなり、職員の産休・病休取得が困難になる施設がでてくる恐れがあると考えられるため、翌年度以降も事業を継続して実施する。</p>
